



日本中央競馬会
特別振興資金助成事業

平成 30 年度
養蜂経営における女性の貢献調査事業
調査結果

(概要版)

2019 年 2 月

JAICAF ジェイカフ

公益社団法人 国際農林業協働協会

調査事業の概要

様々な産業において、女性の貢献が見直され、その活躍が期待されています。経営の多角化および担い手の確保、あるいは養蜂を行う地域の活性化を含む将来の産業振興にとって、女性からの一層の貢献を得ることは極めて重要です。

しかし、養蜂分野においては、これまで女性の役割や働きに関する調査はほとんど行われてきていません。女性の活躍を促す第一歩として、まずは、女性の関与状況の「見える化（可視化）」が求められます。

公益社団法人国際農林業協働協会（JAICAF）では、平成30年度日本中央競馬会（JRA）畜産振興事業として、女性の養蜂経営への関わりを明らかにするためのアンケート調査を実施しました。アンケート調査には、埼玉県を中心として、埼玉・長野・静岡・東京各都県の養蜂家の皆様にご協力いただきました。

本事業は、女性の養蜂経営への貢献を可視化することによって、女性にとって働きやすい環境整備や女性の積極的な経営参加促進に寄与することを目指しています。

アンケートの概要：回答養蜂家数 101軒

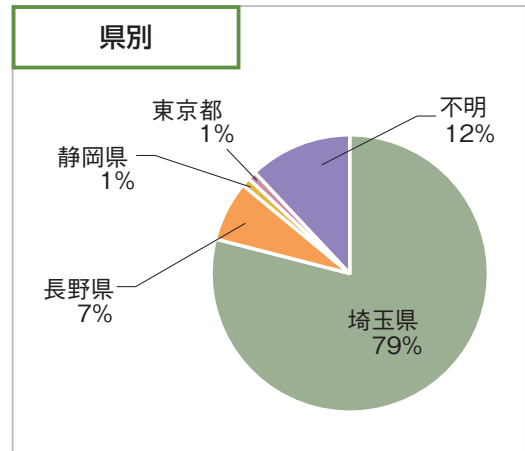
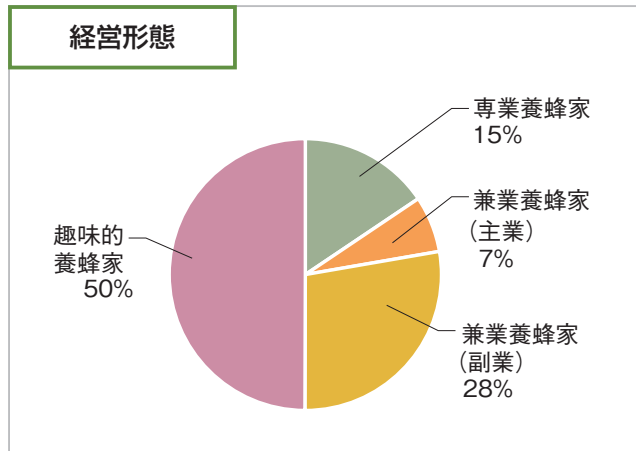
- I. 養蜂への女性の関わり（女性を対象：回答82件）
- II. 養蜂事業の概要（男女いずれかを対象：回答90件）
- III. 女性の経営参画に関する意向（男女両方を対象：回答132件）

※2018年7月～同年9月にかけて、埼玉県を中心として、埼玉・長野・静岡・東京各都県の養蜂家を対象として実施しました。

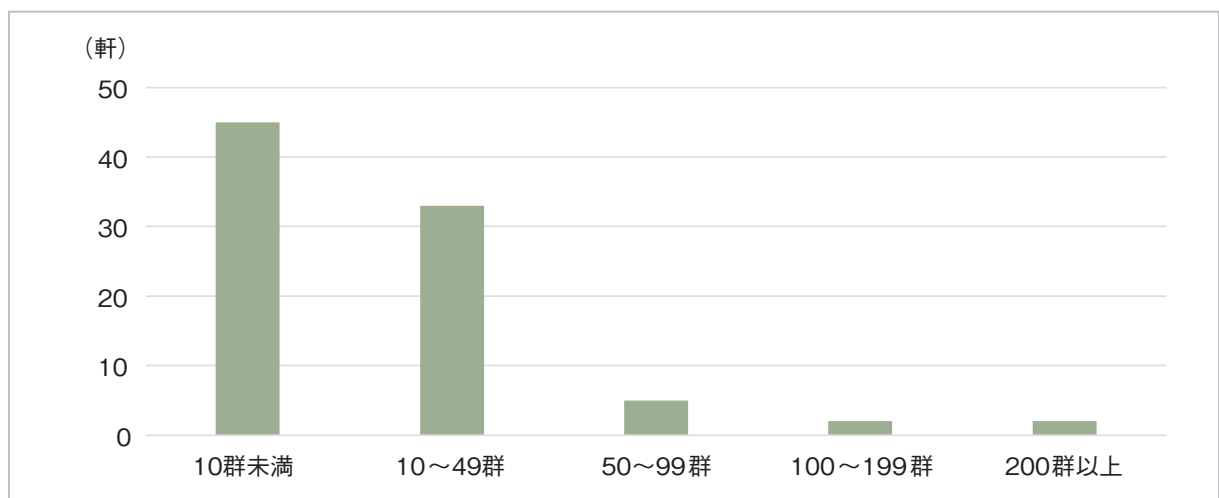
回答にご協力くださった養蜂家の皆様、アンケートの実施をご支援くださった養蜂協会の関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

この調査の結果が、今後の養蜂と女性の幸福な関わりを少しでも後押しすることを期待します。

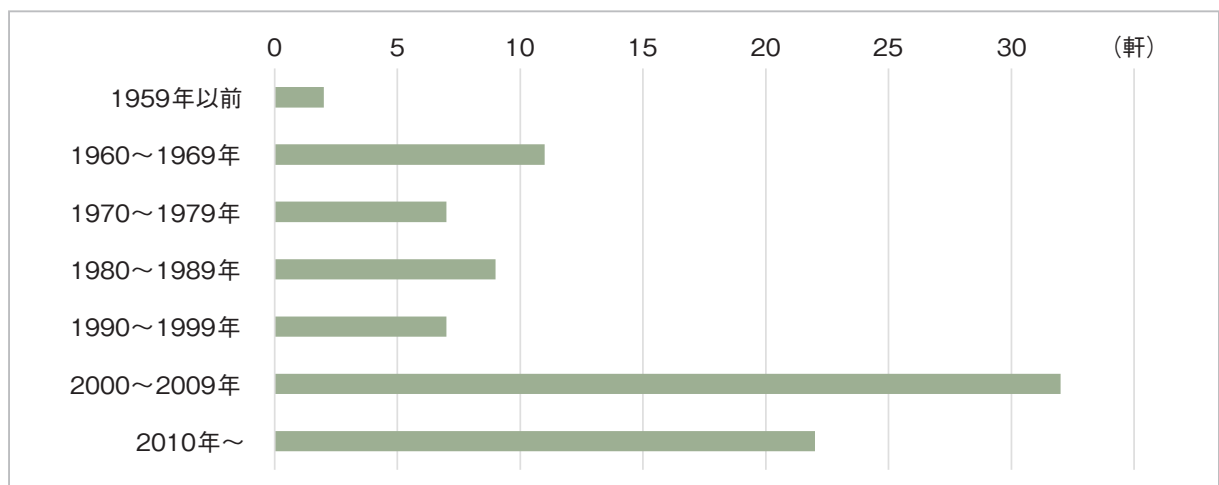
アンケート回答者 [90世帯／法人] の養蜂業の概要



飼育蜂群数

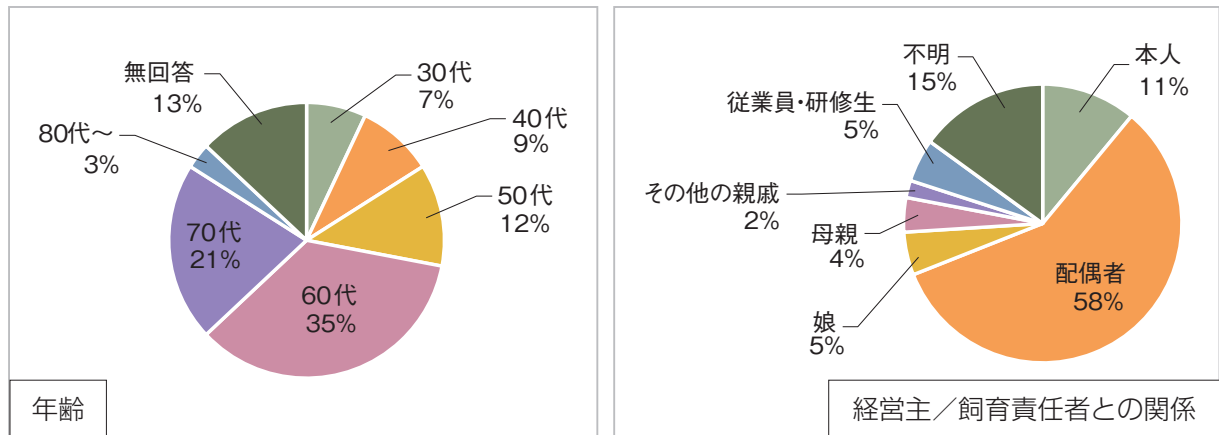


養蜂を始めた時期



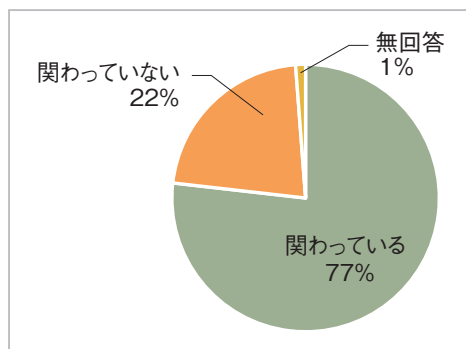
養蜂への女性の関わり～アンケートⅠ

回答者 [82人] の背景：年齢（左グラフ）と経営者／飼育責任者との関係



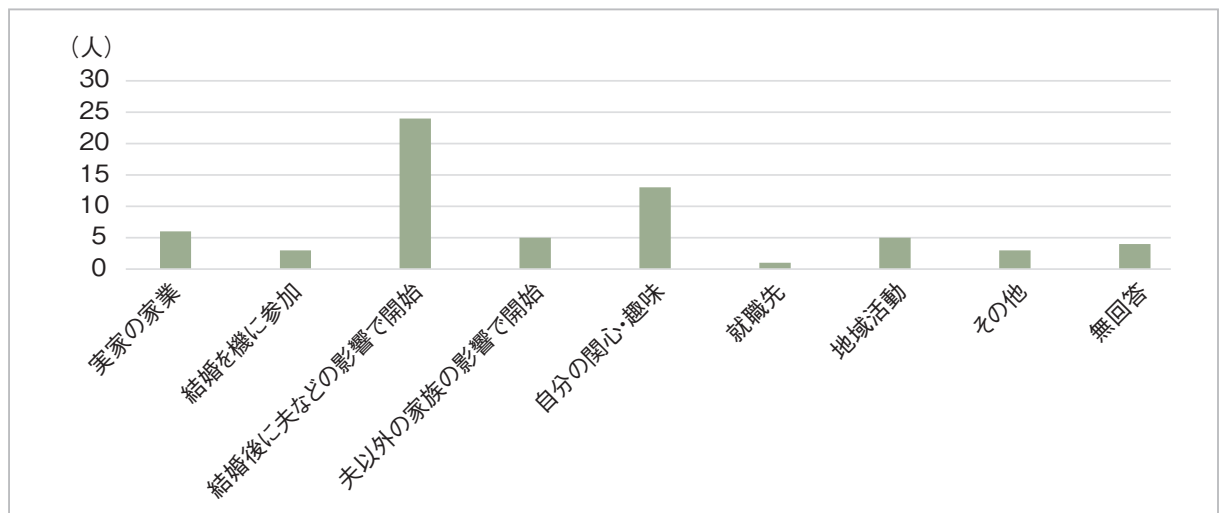
養蜂や経営への関与

Q. あなたは養蜂（飼育、採蜜、販売、道具類の購入、PR、加工品づくり）に関わっていますか [母数82人]

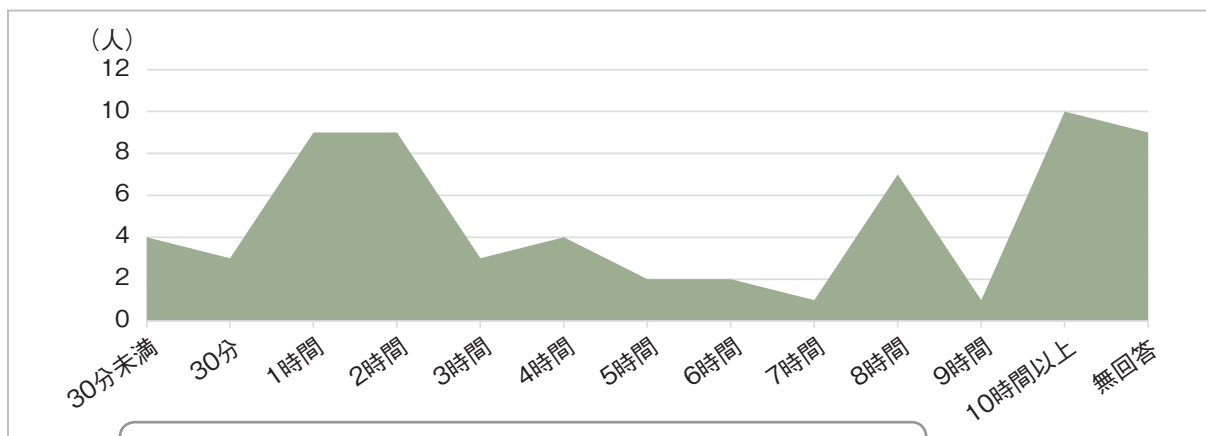


回答者の77%が養蜂に関与と回答
無回答の1人も、その他設問の回答状況から、養蜂に関わっていると判断できるため、82人中64名が養蜂に関わっている

Q. 養蜂を始めたきっかけは何ですか [母数64人]

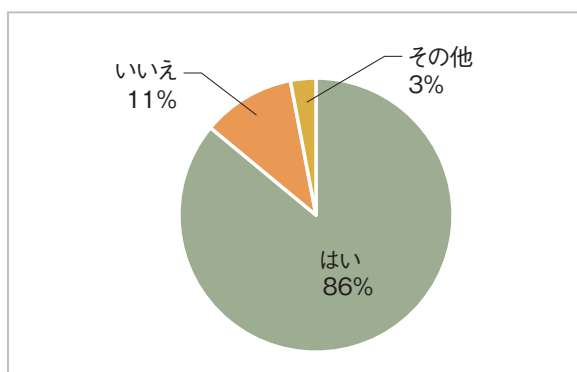


Q. 1日のうち、養蜂に割く時間はどのくらいですか【繁忙期】 [母数64人]

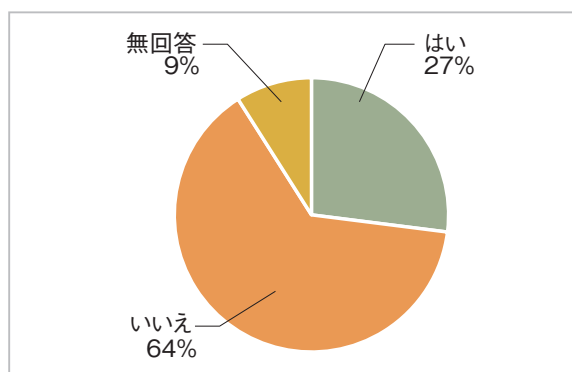


繁忙期の労働時間は平均4時間54分
10時間以上の人10人で、最長は16時間
一方、30分未満が4人、30分～1時間以下も12人であった

Q. 蜂蜜などを販売することがありますか [母数64人]

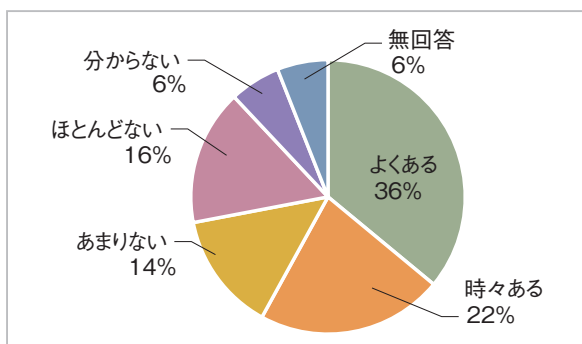


Q. 新しい販売方法を提案し実行したことがありますか [母数55人]



多くの女性が販売に携わっている
販売に携わる女性の4人に1人は、新しい方法にチャレンジしている

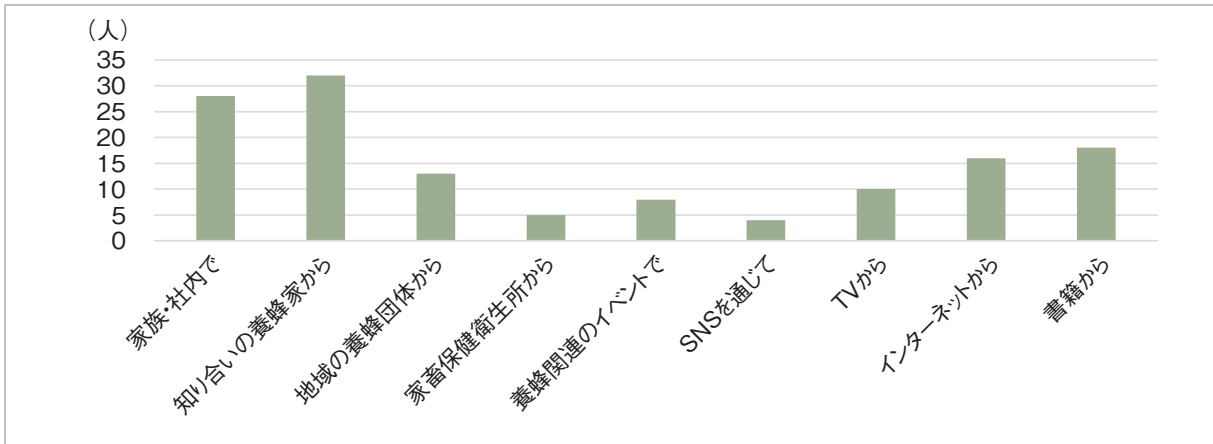
Q. 養蜂（飼育、採蜜、販売、道具類の購入、PR、加工品づくりなどを含む）に関して、自分の意見が採用されることがありますか [母数64人]



58%の女性が、意見を採用されることが「よくある」「時々ある」

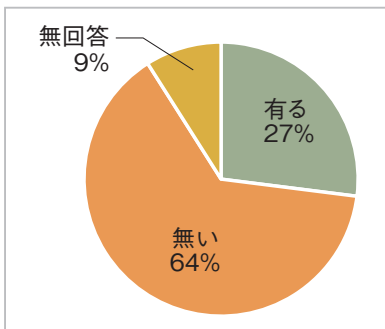
情報へのアクセス

Q. 養蜂全般や技術に関する情報はどこから得ていますか [母数64人／複数回答]



家族や知人など個人のネットワークと、本など誰もがアクセスできる情報源の活用が多い

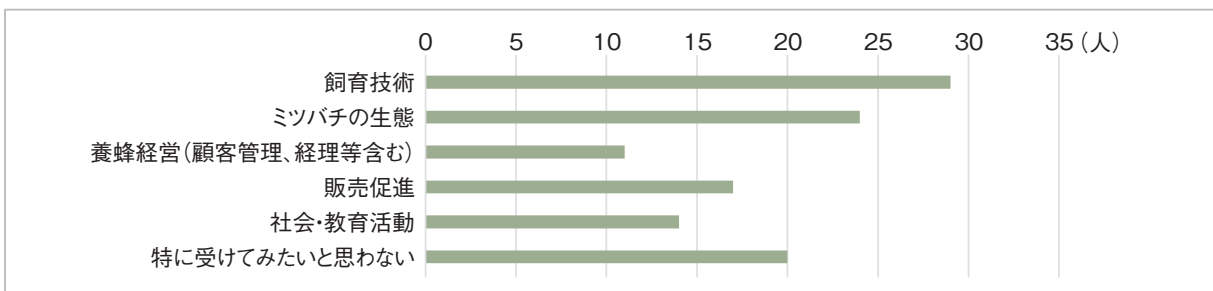
Q. 飼育技術に関する研修を受けたことがありますか [母数64人]



受けたことがある女性は4人に1人いる
 研修を受けた経験のある女性は、ない女性に比べて下記が認められる；

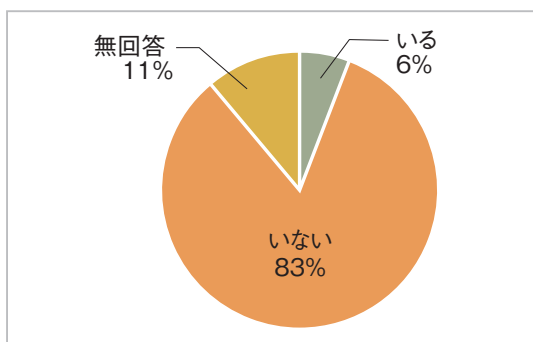
- * 養蜂全般や技術に関する情報源が多様である
- * 今後、主体となってやってみたい仕事が多い

Q. 研修を受けてみたいですか、受けたい研修テーマは何ですか [母数82人／複数回答]



飼育技術やミツバチそのものについての学びを希望している
 販売促進や社会・教育活動への関心も高い
 ただし、「特に受けてみたいと思わない」との回答も20件ある
 技術研修を受けた経験がある女性は、全員が何らかの研修受講を希望しており、
 かつ、受けた経験がない人と比べて、より多くのテーマに関心を持っている

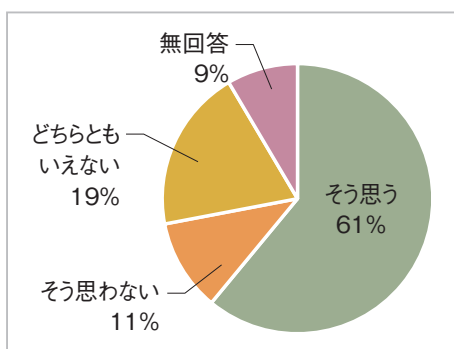
Q. 相談できる女性養蜂家はいますか [母数64人]



女性同士で、悩みや優良事例を共有する場は限られている

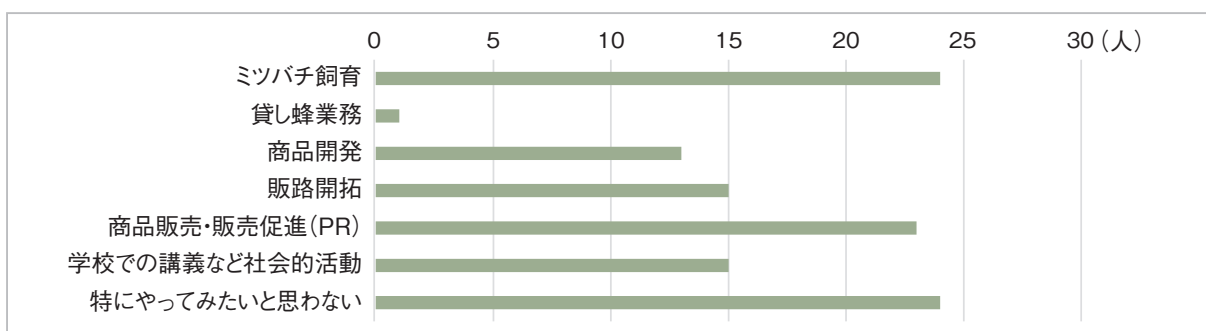
将来への希望

Q. 今後も養蜂に関する活動を続けたい／やってみたいと思いますか [母数82人]



60%以上の女性（50人）が、養蜂に関わりたい、続けたいと希望している
 継続を希望する女性の多くは、現在も養蜂に関わる人だが、現在は関与していないとした女性18人のうち4人は、今後やってみたいと回答

Q. 今後、主体となってやってみたい／拡大していききたい仕事は何ですか [母数82人／複数回答]

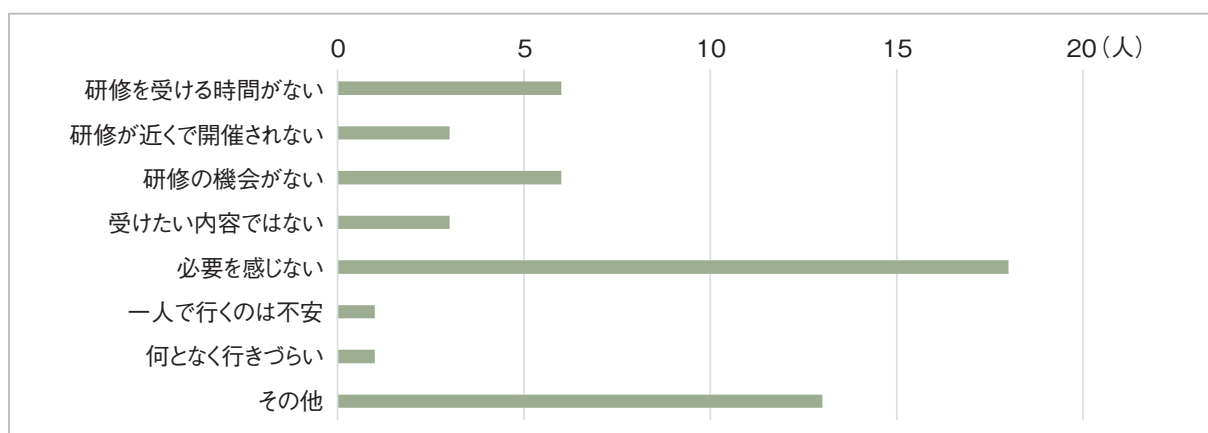


※設問「今後も養蜂に関する活動を続けたい／やってみたいと思うか」で、「今後はやりたくない」「どちらともいえない」「無回答」の32人を含む

主体となってやりたい仕事は「特にない」と「ミツバチ飼育」が同数で最も多く、僅差で「販売」が続いた
 今後も養蜂に「関わりたい、続けたい」と希望する女性は平均1.6項目の仕事を、「どちらともいえない」とした女性も、平均0.7項目の仕事をやってみたいと回答

女性が抱える課題

Q. これまで飼育技術研修を受けた経験が無い場合、それはなぜですか[母数41人／複数回答]



技術研修を受けない理由として、「必要を感じない」との回答が最多で18人
「必要を感じない」女性の多くは、今後主体となって担いたい仕事として、具体的なイメージを持たないか、あるいは、商品としての蜂蜜を扱う部分を指向している
次に多い「その他」では、「夫が主体で自分は手伝い程度」「飼育には携わっていない」といった理由が挙がった。「先生を頼んでいる」という理由も1件あった。また、「幼児がおり、預けられない」という人もいる
「時間がない」「機会がない」「近くで開催されない」といった理由も挙げられ、家事や育児との両立が課題となっている可能性がある
「受けたい内容ではない」という理由からは、採蜜や商品販売に携わることの多い女性のニーズに対応できていない面があると推測できる

Q. 養蜂に関する活動を行う／拡大する場合、何が問題ですか [自由記述] (抜粋・要約)

〈家事・子育て・他の仕事との両立〉

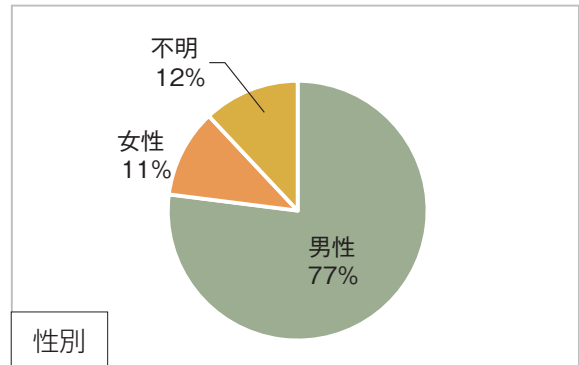
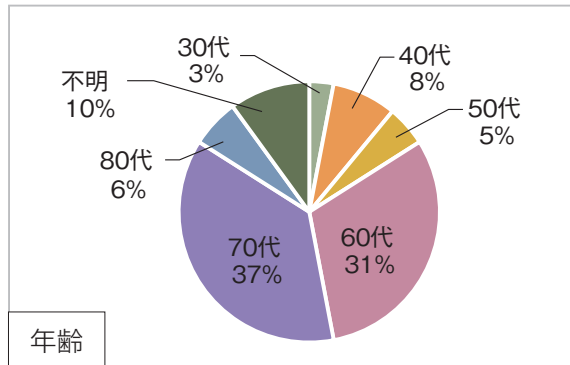
- 内検など一定の時間がかかる作業は、幼児を抱えて一人では無理
- 家事、パート仕事をしつつ手伝っている。これ以上の負担は体力的に厳しい
- 理解力、協力のあるパートナーが必要。家庭や子供を持っていたら難しい

〈重労働〉

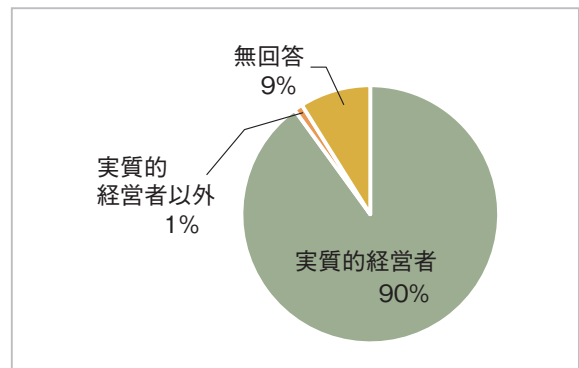
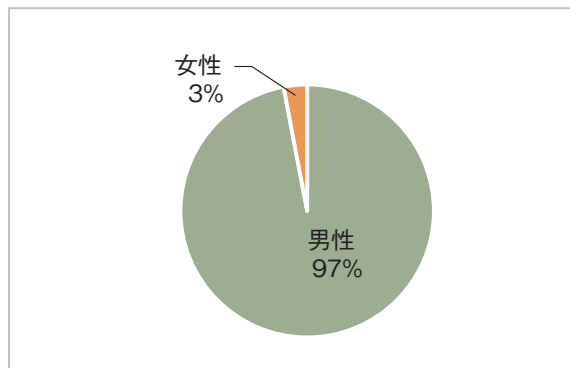
- 蜂の飼育も、蜂蜜のビン詰め作業も、重いのが難点。重い物の持ち運びを助けてくれる器械があればと思う

養蜂労働・経営と女性～アンケートⅡ「養蜂業の概要」から

回答者 [90人] の背景：年齢（左）と性別

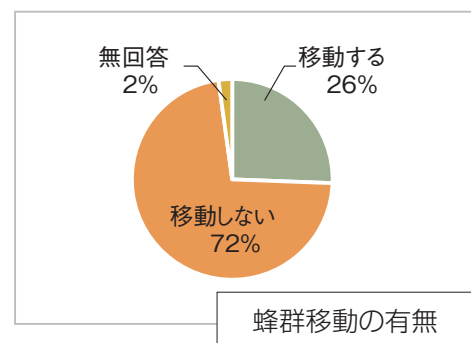
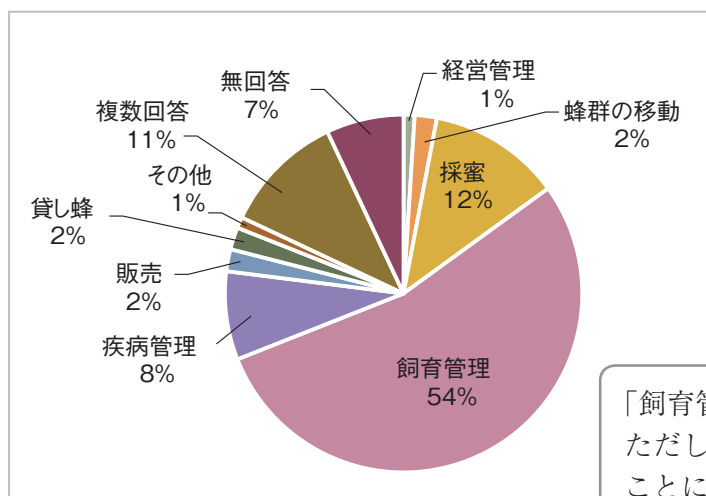


Q. 飼育届出者は誰ですか [母数90人]



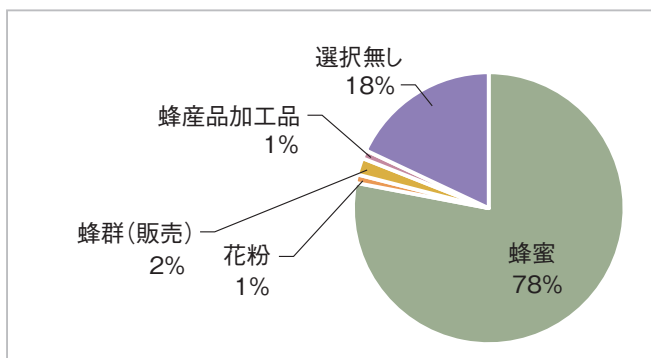
飼育届出者は実質的な経営者であり、男性が圧倒的に多い

Q. 養蜂に関する仕事で最も負担の大きいものは何ですか [母数90人]



「飼育管理」と「疾病管理」で62%を占める
ただし、多くの養蜂家は蜂群移動を行わないことに留意
女性の関与が大きい「採蜜」も12%を占めた

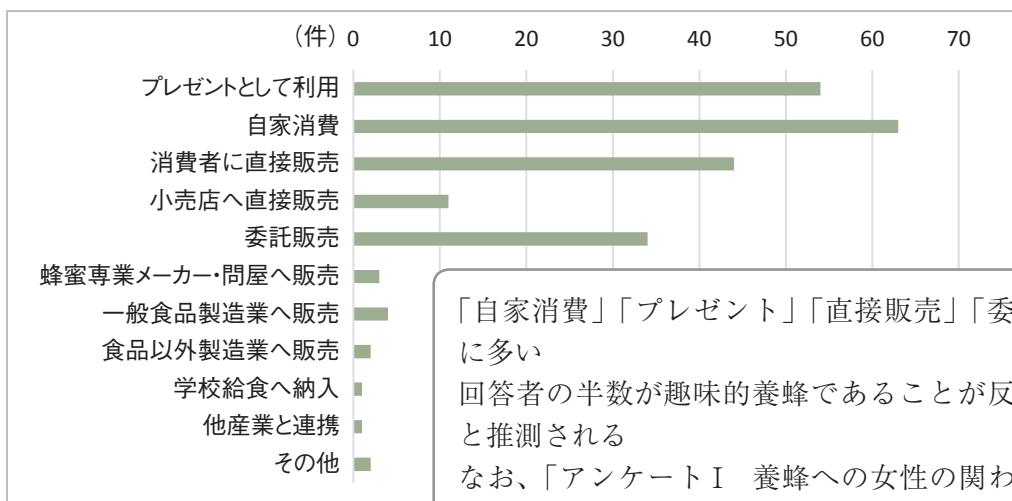
Q. 主たる産品／商品は何ですか [母数90人／1つ選択]



主たる産品は、蜂蜜が8割近くを占める

なお、90軒のうち、主従にかかわらず「蜂蜜を扱っている」と回答しなかったのは6軒のみ。6軒が扱う産品は、「花粉」1軒、「蜂群販売」2軒、「蜂産加工品」1軒、「無回答」2軒であった

Q. 採った蜂蜜をどうしていますか [母数90人／複数回答]

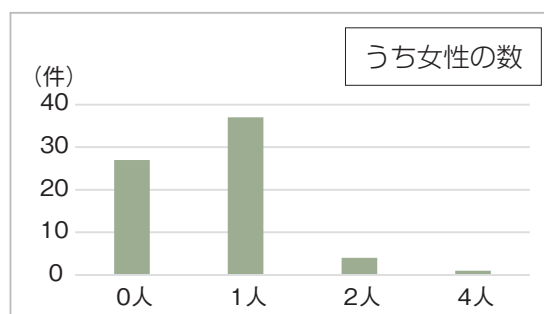
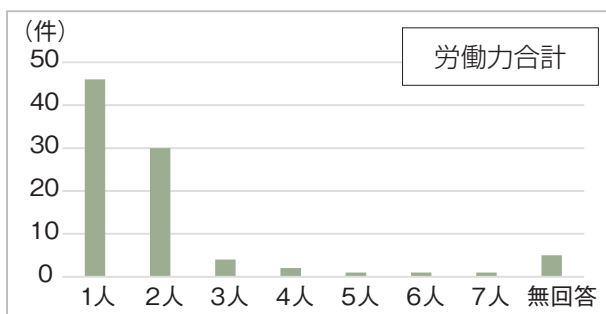


「自家消費」「プレゼント」「直接販売」「委託販売」の順に多い

回答者の半数が趣味的養蜂であることが反映されていると推測される

なお、「アンケートⅠ 養蜂への女性の関わり」では、採蜜以降の川下への女性の関与が大きいことが明らかになっている

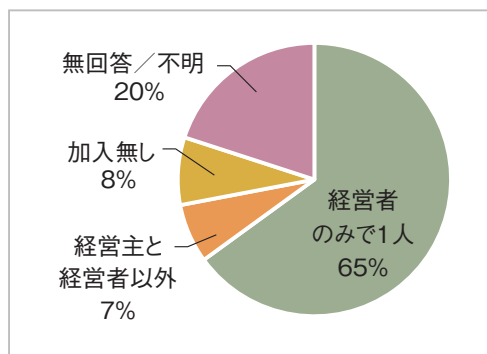
Q. 労働力は何人ですか、そのうち女性は何人ですか [母数90人]



労働力は1名が最多。飼育届出者・責任者の9割が男性であることから、この1名は“男性”を示すものが多いと推測できる

ただし、アンケート回答者の8割近くが男性であること、および、女性の労働力を「0人」と回答した26件のうち5件は、アンケートⅠでは、女性が“養蜂に関与”と回答していることから、女性の労働が認識されていない可能性があることも示唆される

Q. 地域の養蜂団体に加入している場合、登録メンバーは誰ですか [母数90人]



90件の回答のうち、「加入していない」としたのは7件
明確に「加入している」回答者では、「経営者のみで1人」との回答が最多で、59人。「経営主と経営者以外」が6人。そのうち、女性は4件（4人）

Q. あなたの養蜂の課題や将来計画を教えてください [自由記述] (抜粋・要約)

〈飼育技術・疾病管理〉

- 強群を作る技術が習得できていない、群当たりの生産性を向上させたい
- 病気に強い蜂群づくり、ダニの薬剤耐性獲得など、疾病管理に課題がある

〈環境・蜜源〉

- 蜜源が確保できない、蜂場が不足・不安定化している、蜜源が減少しつつある
- 地域と密に関わる養蜂を行いたい
- 飼育場所やトラブル時の転地場所の確保など、地域との関係構築に課題がある

〈労働力〉

- 労働力の確保（特に、夜中の移動）に困難を感じている
- 複合経営のため、飼育管理等養蜂に割く時間が不足しがちである
- 重い巣箱、夏の暑さなど重労働である

〈販売〉

- 販路の確保と開拓が必要だが、難しい
- 商品開発を行いたい

〈その他〉

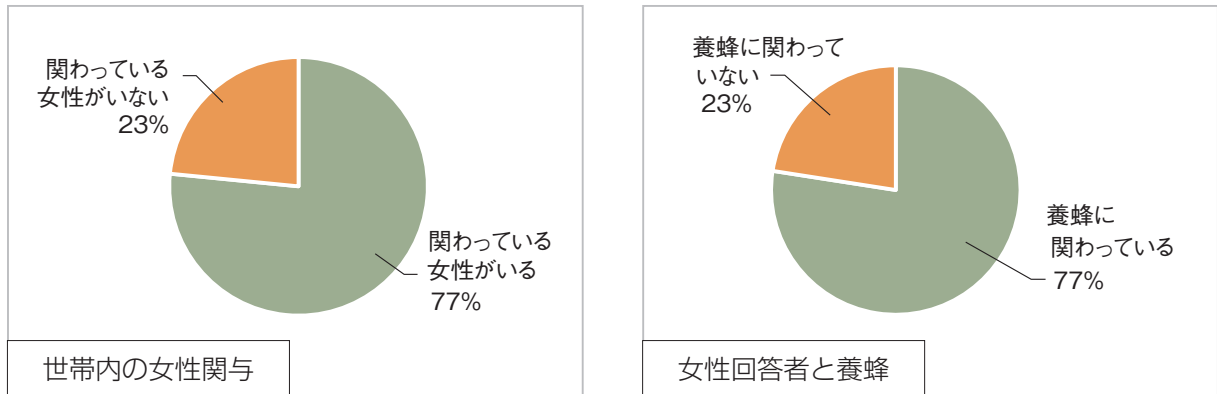
- 後継者がいない
- 養蜂のすばらしさを伝え、広めたい
- 盗難が多い

Q. 日本の養蜂において、課題やあるべき姿は何でしょうか [自由記述] (抜粋・要約)

- 蜜源が不足している
- ミツバチ用の薬が少ない
- ミツバチがいなければ農業生産にとってダメージとなることを、もっと広く周知すべき
- 蜂産物の医療分野での活用をもっと進めるべき
- 日本の養蜂スタイルを、ミツバチの生態に即したものに改めたい
- 資材や薬が高価で、コスト高になる

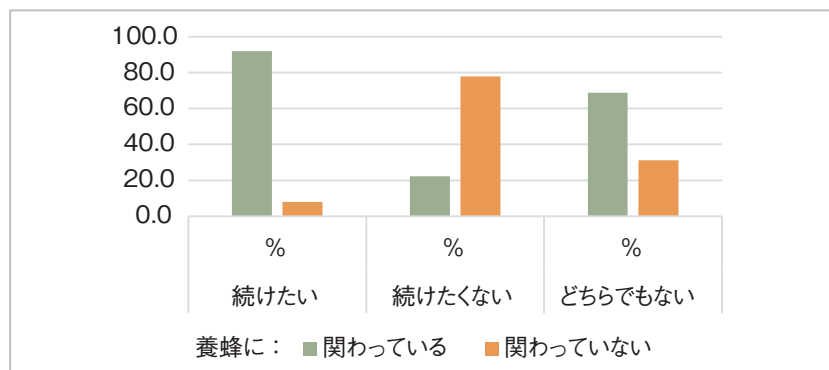
養蜂経営における女性の貢献～アンケートⅠおよびⅡの分析結果から

アンケートⅠとアンケートⅡ両方を回答した者〔64世帯（女性回答者71人*）〕の背景



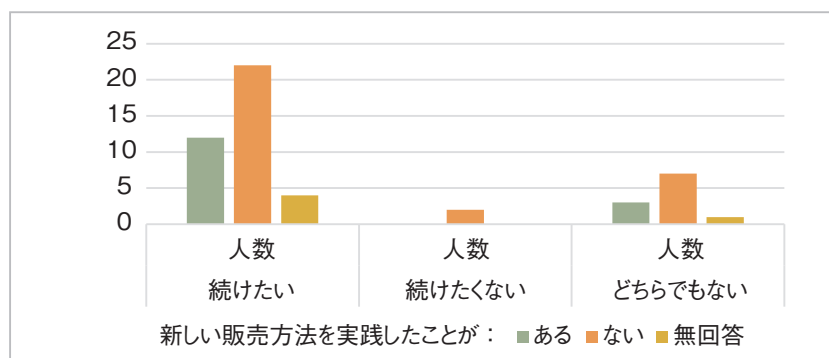
将来の意欲と現在の関与

現在、養蜂に関わっている人ほど、将来も続けたいと希望している



女性の現在の関与の有無と将来の意欲

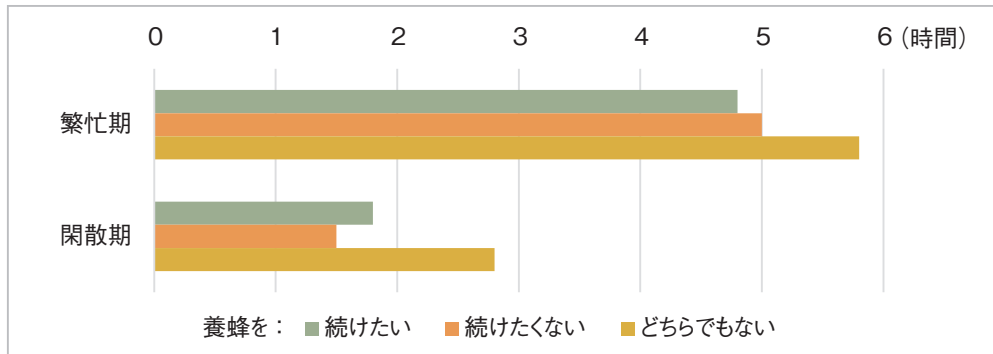
新しい販売方法を実践した経験のある人ほど、将来も続けたいと希望している



女性の現在の積極性と将来の意欲

*同一世帯内に女性が複数いる場合、複数の女性から回答を得た。

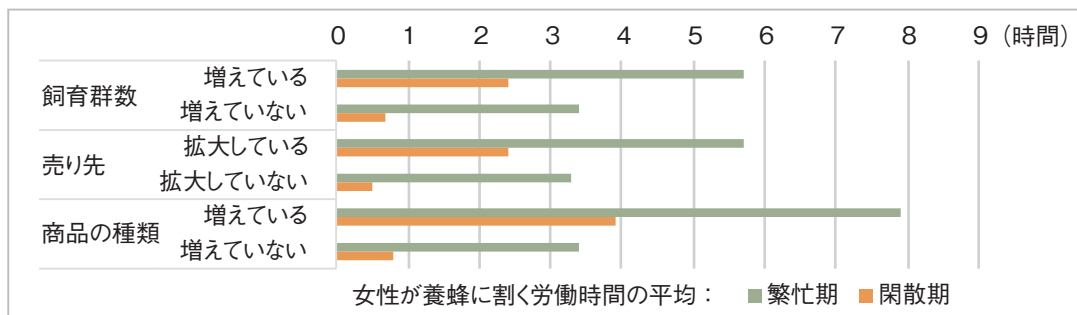
家事、育児、介護を担う女性にとって、労働時間が問題となっている可能性がある女性の貢献を得るためには、労働の在り方に留意が必要かもしれない



女性の労働時間と将来の意欲

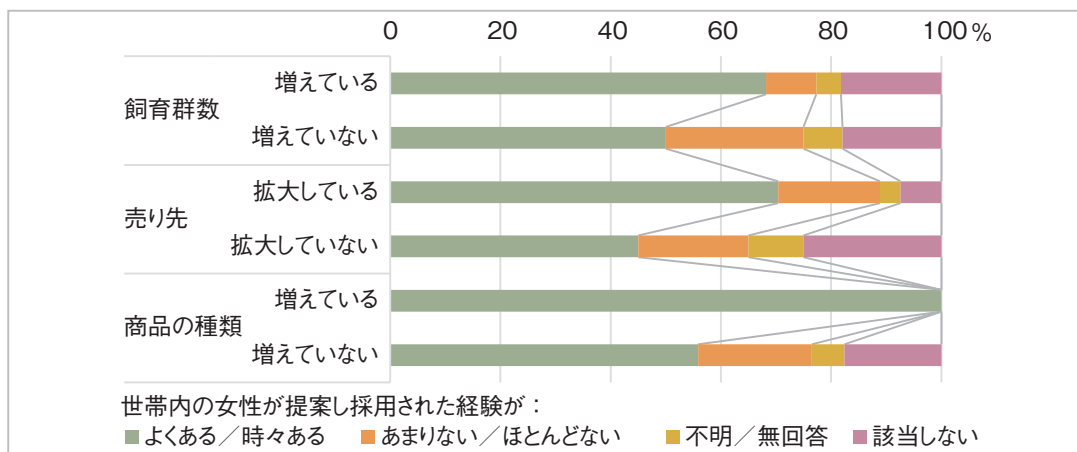
経営拡大と女性

一方、女性の労働と経営の拡大状況には、正の相関関係が見られる女性の労働を得られるか否かは、経営拡大に影響すると推測できる



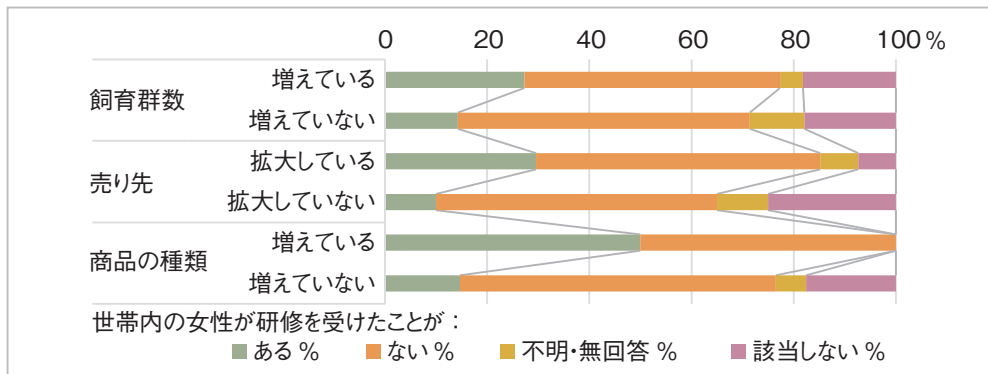
経営拡大状況別にみる世帯内女性の平均労働時間

女性の意思決定への関与と経営の拡大状況にも、正の相関関係が見られる



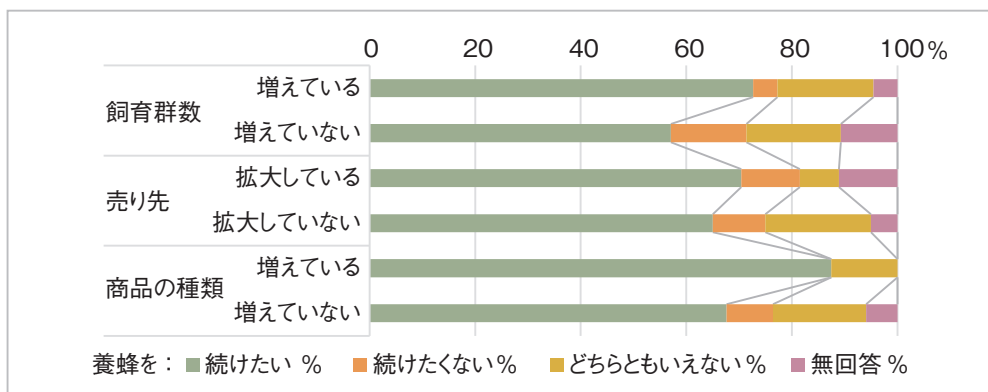
経営拡大状況別にみる世帯内女性が自分の意見を提案し採用された経験の有無

女性の研修経験の有無と経営の拡大状況にも、正の相関関係が見られる



経営拡大状況別にみる世帯内女性の飼育技術研修を受講した経験の有無

女性の将来への意欲と経営の拡大状況にも、正の相関関係が見られる

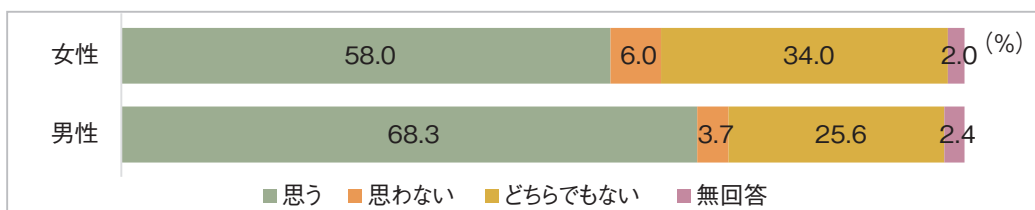


経営拡大状況別にみる世帯内女性の将来への意欲

女性の役割への理解

女性50人、男性82人に、養蜂経営における女性の役割の重要性を尋ねた。

Q. 養蜂経営において女性が重要な役割を果たしている、あるいは果たした方が良いと思いますか



女性の役割の重要性については半数以上の方が賛意を示し、また、男性の方が、よりそのように思っている

希望する女性が将来も続けやすいように、労働の在り方、ネットワークの整備、サポートする道具類の開発や確保など、課題の解決が求められる

アンケートⅠ 養蜂の仕事80－女性の関わり

「主に自分（女性）が実施している」「誰かと協力しながら実施している・相談しながら実施している」「誰かを手伝っている」「他の人がやっていて、自分はやっていない」「作業が該当しない（無回答含む）」からそれぞれ1つ選択。それぞれに係数を掛けて、点数化し、女性の関与度を計った。

各項の係数は下記の通り。

1. 「主に自分（女性）が実施している」×1
2. 「誰かと協力しながら実施している・相談しながら実施している」×0.8
3. 「誰かを手伝っている」×0.5
4. 「他の人がやっていて、自分はやっていない」×0
5. 「作業が該当しない／無回答」×0

40点以上
30-40点
20-30点
10-20点
1-10点
0-1点

経営・販売	何を販売するか決める	どこに販売するか決める	いくらで販売するか決める	採蜜したハチミツを保管する	包装容器を調達する	ハチミツをびん詰める	マスク・衛生帽等を準備する	ラベルのデザインを決める	
	29	31.7	30.8	28.4	28.9	41.4	36.5	34	
	ラベルを貼付する	お客様に販売する	伝票を作成する	委託先と交渉する	商品在庫を管理する	蜂群の購入を決める	実際に蜂群を発注する	納品された蜂群を受取る	
家事	作業に合わせて食事を作る	作業に合わせて配膳する	作業に合わせて食事を片付ける	作業に合わせて洗濯する	作業に合わせて掃除する	作業に合わせて日用品を調達する	状況に応じて家計をやりくりする	隣近所との付き合いに気を配る	
	42.3	35.7	40.1	41.3	38.8	37.1	37.4	37.5	
	今年度の経営方針を決める	従業員の勤怠管理を行う	経理事務を行う	確定申告の準備をする	確定申告書を提出する	HPを作成・更新する	SNSで発信する	養蜂協会の会合に出席する	
養蜂	飼育	内検する	巣を合同する	巣箱を保温する	巣箱の保温材料を取り除く	建勢のタイミングを決める	給餌する	給餌用の花粉や糖液を準備する	継箱を乗せる
	13.5	13.1	13.8	13	10.6	15.7	17.6	14.4	
	新しい女王バチを作る	育成箱を準備する	巣板・巣箱を清掃する	巣板・巣箱を保管する	ハイブツールを点検・保管する	蜂場を清潔に保つ	保管場所を清掃・整頓する	作業記録を整理する	
	13.3	14.3	15	14.5	11.9	13.9	16.7	9.6	
	移動	届出書類を作成する	届出書類を確認する	巣箱を運搬用に荷造りする	巣箱をトラックに運ぶ	巣箱を荷台に積む	転出先蜂場を整える	移動のため運転する	転出元蜂場を片付ける
7.2	7.2	6.4	10.2	10.4	5.1	9	8.5		
疾病	病害虫の情報を収集・共有する	薬剤の購入を決める	薬剤を発注し、受取る	薬剤を保管・在庫管理する	薬剤を使用する	異常な巣を抜く	疾病管理を記録する	家畜保健衛生所に連絡する	
10.4	10.7	11.4	10.4	11.8	12.3	9.6	10.1		
採蜜	採蜜のタイミングを決める	採蜜する巣を抜く	採蜜する巣を運ぶ	分離機を回す場所を清潔にする	分離機にかける	分離機を保管・管理する	蜜蓋を切る	切った蜜蓋を処理する	
13.1	17.5	25.2	34.2	38.6	27.2	33.1	28.5		
貸し蜂	農家から注文を受ける	顧客管理を行う	蜂群の貸し出し計画を作る	蜂群を配達する	蜂群を回収する	伝票を作成する	農家に蜂群の扱いを伝える	農家から相談を受ける	
3.7	3.4	1.3	1.8	0.8	3.1	0.5	0.5		

調査・分析

公益社団法人国際農林業協働協会

西山亜希代（業務グループ調査役：総括）、森麻衣子（同 主任研究員）、
田中麻理（同 研究員）

アンケート調査実施期間：2018年7月～9月

アンケート調査回答者の居住地：埼玉県、長野県、静岡県、東京都

養蜂経営における女性の貢献調査事業 報告書（概要版）

2019年2月発行

作成

公益社団法人 国際農林業協働協会

〒107-0052 東京都港区赤坂8-10-39

赤坂KSAビル3階

TEL：03-5772-7880

FAX：03-5772-7680

www.jaicaf.or.jp

ISBN：978-4-908563-40-9 print

ISBN：978-4-908563-41-6 pdf

【平成30年度日本中央競馬会畜産振興事業】